

## 第 48 話<録音テープ>の要約と参考資料

### 第 48 話<録音テープ>の要約

### 第 48 話<録音テープ>の参考資料

#### 48-1 齋藤テープ発見の経緯

川原作成ファイル「ベンガルの物語 09.07.17-11.12」より

2009 年 10 月 2 日（金）（前夜土呂久山荘に 1 泊。朝から幸利さんと阿蘇市の阿蘇温泉病院に佐藤トネさんを見舞い。豪雨の中、宮崎へ帰る途中、齋藤先生に電話した）

齋藤先生の話。「カセットテープは、自分が持っているとも思い、誰かに預けた。誰だったか？ 段ボール箱いっぱい、30 本以上あったはず。貴重なものだけに、被害者の証言は編集して 1 本にした。これに主なものは入っています。川原さんはバングラデシュに行ってやり、帰ってきたら土呂久のこと。大変ですねえ」

阪本先生に電話。「齋藤さんが鞆田先生に預けたテープを、鞆田事務所を閉じるときに鞆田弁護士が全部私に渡しました」「今から 1 時間半後に行きます」「それまでに探してみます」

阪本宅に保管されていた。齋藤先生に電話。「来週火曜日に自宅にいる。テープのおかしいところは削ってほしい」。

アジア砒素ネットワーク事務所の浅尾歩に電話。「火曜日、了解」。読売新聞の甲斐記者にも連絡。

#### 48-2 齋藤録音テープのデジタル化完了

2018 年 9 月 15 日 川原メモ

昨日（2018 年 9 月 14 日）、齋藤正健先生が 1971 年 11 月の土呂久公害告発から数年の間に、被害者の体験や支援運動の集会の音声を録音していたカセットテープ 145 本（写真）のデジタル化作業を完了した。齋藤録音テープをいれた段ボール箱が延岡市の阪本暁先生宅にあることがわかり、齋藤先生の許可を得てアジア砒素ネットワークの事務所に移したのが 2009 年 10 月 2 日。マイクロソフト社の助成金で、野の花館に保管している川原収集資料（通称土呂久図書館）8 万点を撮影し、データベース化しているところだった。その後時間はかかったが、アジア砒素ネットワーク理事の下津義博さんや韓国人留学生の李沅錫（リー・ウォンソク）君の力を借りて、この夏最大の仕事を 9 月半ばに終えることができた。

作業は、ソニー製の機器（写真）を使っておこなった。カセットテープを再生すれば、

流れ出る音声が自動的にメモリーカードに写しとられていく。イヤホーンで音声を聞きながら、他の仕事もやることもできた。45 年も前のカセットなので、茶色のテープ本体と透明なリードの接着個所がはずれて、音の出なくなったものが 10 本余りあった。ネジをはずしてカセットを開き、切断個所をセロファンテープでくっつけて動かした。こんな細かい作業をしたのは何年ぶりだったろう。難しかったのは、ネジがカセットの内側に隠れているものだ。カセットを壊してテープを取り出し、ネジが表面につけてあるカセットを空にして、そこにテープを移して動かしてみた（写真）。音が出たときは最高にうれしかった。そのテープの録音日は 1973 年 1 月 24 日。斎藤先生が佐藤鶴江さんに電話して、前年 12 月 28 日に低額の知事あっせんをのまされた無念の気持ちを聞き取ったものだった。

亡くなった土呂久のむら人が被害の体験、鉱山労働の体験を語る。土呂久・松尾等鉱害の被害者を守る会が結成されて、岡山大学医学部の自主検診がおこなわれ、日弁連休廃止鉱山鉱害調査団が土呂久をおとずれ、裁判の道が開かれていく。二度と聞くことができないと思っていた被害者の声がよく響きただけでなく、1971 年から 1975 年ごろの土呂久激動の歴史がなまなましい音声で再現された。

この秋は、いつの日か現われるであろう土呂久史に関心を持つ人が、簡単に検索できるように、デジタル化された音声の内容の整理に取り組む。斎藤録音テープのデータベース化は、土呂久の歴史資料を保存して後世に伝える（「土呂久アーカイブ」）重要な仕事のひとつである。

#### 48-3 亜ヒ焼き開始の時期に関する聞き取り

齋藤テープ B-7 土呂久鉱山の歴史、生き埋めより

録音日時：不明（1972 年ごろ？）

出席者：齋藤、小笠原イセノ、佐藤カジ、佐藤ハルエ、佐藤十市郎

佐藤鶴江（遅れて参加）

齋藤 宮城（正一）さんが来ているときに働いたのですか？

イセノ 釜築（かまつき）があったり、坑道をとりあげたりする。そのころから私は出  
よりました。

齋藤 宮城さんが来られたのがいつでしたか？

カジ 大正 9 年じゃったと思いますがね。

齋藤 宮城さんが来られたのが大正 9 年ですね。

ハルエ 大正 6 年じゃろが。

カジ 白石のじいさん（豊三郎）が、発破にかかったじゃねえか。あんとき窯築きが始  
まっとった。窯築きをやりよったときに、発破にかかってひっくり返らされた。

齋藤 宮城さんが来られたのは 9 年？

カジ アヤが4歳のとき。

男 そんな、お婆さんは出よったじゃねえと？

カジ おりゃ、仕事に出たこたねえ。うちにおらしたったい、そうばい。

ハルエ 樋の口におらしたつげなの、宮城正一は？

カジ そうばい。

齋藤 それこそ、年保。家内のとこの年保さんが連れてきたとですね。

カジ そうそう。

齋藤 大正9年でしたか？

ハルエ ちがうばい、そりゃ。

カジ ちがわん。アヤが4つ子のときじゃから。

ハルエ 6年とか、7年とか。うちのじいさん（夫の実雄）な樋の口におられたげな、あんとき。

齋藤 もっと前？ 大正6年とか7年？

カジ 大正6年じゃったもんねえ、樋の口が焼けたとは。あれより、まっところちじゃき。

イセノ かな山のじいさん（佐藤利喜治）が死になさったとは、あれはいつごろじゃったね？

カジ ありゃあ、大正8年か。

イセノ あんとき、かな山のじいさんが「亜ヒ鉾山（やま）がくるげなが、銭とりが始まるが、いいあんばいじゃが、話にや、毒のあるもんげな」ち、死ぬるときに話しよらしたき。

齋藤 金山さん？

カジ 喜右衛門じいさんのお父さんたい。

イセノ 私どものじいさん。利喜治じいさん。

\*佐藤利喜治と種（最初の妻）の娘タカと富高政太郎の間にできた子が、砂太郎、イセノ、勝次郎、暁。砂太郎とシオの子がハルエ、鶴江。イセノは利喜治の孫、ハルエと鶴江は利喜治のひ孫になる。（川原注）

カジ あん年たいなあ、始まったとは。かな山のじいさんが死んだから、後片づけしとるときに、\*\*さんが気分悪いというて、そのあくる日、\*\*さんが亡くなったのは。

イセノ あのつづきに亜ヒ鉾山が始まったとじゃから。

カジ 大正9年じゃ。

齋藤 大正9年ですか。十市郎さんの誤りかな。

十市郎 アハハ。

ハルエ 大正6年か、7年じゃねえ？

カジ 6年じゃねえ。6年は、樋の口が焼けた年じゃから。アヤがでくる前じゃったか

ら、焼けたとは。俺が憶えちよるとたい。かな山のじいさんが亡くなった年から  
亜砒鉍山は始まった。

\*かな山のじいさん（佐藤利喜治）が死んだのは大正9年5月2日。（川原注）

齋藤 始まったと同時にイセノさんは働いたわけですか？

イセノ 兄貴どん（富高砂太郎）が請けちやりよったもんじゃき、でくるなら、早くから  
でた方がいいぞ、と言われたき、出よりました。

齋藤 大正9年ですね。こんど労働基準監督署からの調査の通知に、いつからいつまで  
働いたか、ということを書いてあるですわ。そのとき聞くかもしれませんが、  
憶えておいたほうがいいですわ。宮城さんが始めて、しばらく亜ヒ酸焼きがやま  
ったんですね。

イセノ はい、2、3年やまっていた。

齋藤 やまっていた間に、銀かなんかを取ったわけですね。

カジ あそこにあがり小屋があったたいな。いまの事務所のあるところに。かな山のじ  
いさんが死なすちよっと前に。

イセノ ありゃ、焼けた。銀をとるというて、橋の小口にあったと。あれが焼けた。

十市郎 銀山ヤマがいつちよったの。

イセノ 清助さんが船頭で。

カジ あれは、亜ヒ酸鉍山が始まる前。

イセノ じいさんが死なっさんうち。

齋藤 宮城さんが来る前に銀をとったんですね。

十市郎 いや、宮城さんよりあとばい。

（出席者の間で、銀をとったのが亜ヒ酸焼き開始の前だったか後だったかで議論がつづく）

齋藤 そしたら、話を戻すけど。

（佐藤鶴江が「先生は元気はいいですか。ご苦労様です」とあいさつして登場）

齋藤 イセノさんは、このころから働かれて、宮城さんところでは何年くらい働いた？

イセノ 何年もじゃなかった。ちょいとじゃったの。それから中止になって、2、3年し  
て川田（平三郎）さんが始めた。

齋藤 川田さんですね。このころも、また行かれたんですね。

イセノ はい、それからつづきに。坑道が高くなって、トロで押し出すようになるまで  
行きました。それから女衆はひまになりました。坑道が広がってから。

（女性たちがじょうれん箱を引いて50貫～60貫もの鉍石を坑内から坑外に運び出した  
労働について話が始まった）

#### 48-4 ヒ鉍の採掘が始まった時期について

佐藤ハルエさんの話（聴取時期不明）

砂太郎（父）が鉱山の仕事を始めたのは、うち（ハルエ）が小学校1年にあがる大正8年より前。それまでは炭焼きをしていた。うちが学校にはいったときは小又谷に住んでいたが、すぐ鉱山の長屋に移った。

高千穂町史

1918年	大正7	この頃、竹内令さく土呂久鉱山の鉱区権を取得して亜硫酸の製造を始める（8.22）
-------	-----	---

\*竹内令さくは1918（大正7）年8月22日にヒ鉱の採掘のために鉱業権を取得したと考えられる。あくまでも硫と鉄鉱を採掘したのであって、硫と鉄鉱を焼いて亜硫酸製造を始めたのは佐伯からきた実業家宮城正一だった。（注・川原）

#### 48-5 佐藤利喜治の死亡年月日

墓碑

佐藤喜右衛門

父 俗名 力治 （\*戸籍では利喜治）

行年 72才

大正9年5月2日

（\*数え年とすると、生まれた年は1849年つまり嘉永2年になる）

#### 48-6 100年後も語られる年保さんのこと

佐藤富喜男さんの話（2020年1月29日聴取）

樋の口の助の弟（兄が正しい）の年保が、臼杵（佐伯が正しい）から亜硫酸焼きする人物を連れてきて、亜硫酸焼きを始めて、金をもうけて、土呂久からどこかに消えたつよ。ろくな者じゃねえ。